

【国語】 <中学校 第1学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図や内容を正しく聞く力、どのような事実がどのような順序で話されているのかを聞く力をみる問題などで、多くの正答率が80%を上回っている。
- 他方、話し手の説明の工夫を正しく聞く力をみる問題の正答率は、70%程度である。
- 「書くこと」については、自分の考えをはっきりさせ、具体例を入れて書く力をみる問題の正答率が60%を上回っている。
- 他方、文の長さやつながり方に気を付けて分かりやすい文章に書き直す力をみる問題の正答率は60%を下回っている。
- 「読むこと」については、文章における語句の意味を正しく理解しながら読む力、文章に表れている見方や考え方を正しく理解しながら読む力をみる問題などの正答率が80%を上回っている。
- 他方、物語の展開に注意して場面の状況を正しく理解しながら読む力をみる問題の正答率は60%を下回っている。
- 「言語事項」については、中学校第1学年までに学習した漢字を正しく読む力、文の意味を考えて正しい修飾語を使う力をみる問題などで、正答率が90%を上回っている。
- 他方、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1) 話し手がどのような事実をどのような順序で話しているかを正しく聞く力をみる問題の例 (「聞く能力」)

<問題> 四の二

二 [場面A]で美化委員長の鈴木さんは、自分の考えを訴えるために、どのようなことを、どのような順序で話していましたか。次のア～ウの内容を適切な順に並べて、符号で書きなさい。

- ア 全校集会での先生の話
- イ そうじ用具入れの様子
- ウ 放課後の掲示板の様子

<結果> 正答率 88.5% (正答…イ→ウ→ア)

<分析>

この設問は、よりよい校内環境を作りたいという「美化委員長の鈴木さん」が、校内の環境整備があまりよくないという事実について、「掃除直後の様子」「放課後の様子」「先生の注意」という順序で全校生徒に呼びかけていることを正しく聞く力をみる問題である。正答率が90%程度であり、「話すこと・聞くこと」の指導事項ウ（構成や論理）についての指導が着実になされていると考えられる。また、話し手の意図を考えながら内容を聞く力についても正答率が高く、昨年度に引き続き、「聞くこと」の力が十分身に付いていると考えられる。

(2) 自分の考えをはっきりさせるとともに、具体的な例や体験を根拠にして、テーマについての自分の考えを決められた字数で書くことができる力をみる問題の例（「書くこと」）

<問題> 五

A君のクラスでは、「情報を得るためには、新聞とテレビのどちらが便利か」というテーマで話し合うことになりました。このテーマについてあなたの考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたの考え、第二段落ではその根拠を具体的な例や体験を交えて書きなさい。ただし、次の（条件）に従うこと。

(条件)

- ①題名や氏名は書かないこと。
- ②書き出しや段落の初めは一字下げること。
- ③解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

<結果> 正答率 64.9%

<分析>

この設問は、指定された条件に従って、伝えたい事実と自分の考えや思いを明確にして書く力をみる問題である。正答率は60%を上回っているが、昨年度の類似問題の正答率70.3%と比べると、「考えと根拠を段落に分けて書く」条件が加わったため、低い正答率となった。誤答の主なものは、考えと根拠の整合性がとれていないもの、根拠の中に具体例や体験が入らず考えばかりが記述されているもの、二段落構成で書かれていないもの等であった。この結果から「書くこと」の指導事項イ（事柄や意見）について、相手や目的、場面などに応じて伝えたい事実や事柄と自分の考えや気持ちを明確にして書く指導を一層充実させる必要があると考えられる。

(3) 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解しながら読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㊦の六

六 この文章で作者が描こうとしている主人公の思いとして最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

- ア 奄美大島の豊かで厳しい自然に触れ、自然に対して驚きを抱く主人公の思い。
- イ 気の進まない仕事も精一杯取り組み、働くことの尊さを感じる主人公の思い。
- ウ 家族と遠く離れて暮らし、家族や自分のふるさとをなつかしむ主人公の思い。
- エ 人とのふれあいや豊かな自然の中で、心を開き素直になっていく主人公の思い。

<結果> 正答率 85.2%（正答…エ）

<分析>

この設問は、文章に表れている見方や考え方を理解しながら読む力をみる問題である。正答した生徒は、問題文を読み、人とのふれあいや豊かな自然の中で心を開いていく主人公の思いを読み取り、選択肢の「心を開き素直になっていく主人公の思い」を選ぶことができたと考えられる。正答率が高く、「読むこと」の指導事項オ（ものの見方や考え方）について、各学校において着実に指導がなされていると考えられる。

(4) 小学校6年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㊦の一の7、10

次の1～10の文中の_____線部について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- 7 話題になったエイガを見る。
- 10 お金を銀行にアズける。

<結果> 正答率 788.7%（正答…映画） 10 53.7%（正答…預）

<分析>

この設問は、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。7に比べて10の正答率が低いのは、日常生活における使用頻度の差であると考えられる。誤答の例としては、7については「映」を「英」、10については「予」の部分を「矛」と書いたもの、「頂ける」などがあった。また、他の設問に比べ、無解答の割合が高かった。学年別配当表に示される漢字の指導については、日常生活から社会生活へと広げ、漢字使用に対する生徒の関心・意欲を大切にしながら継続して指導することが大切である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図を考えながら聞く力を高めるために、指導事項のア（考えや意図）の内容を扱う学習活動を意図的に指導計画に位置付けるとともに、他の指導事項との関連を明らかにして、年間を通じて継続的に指導できるよう年間指導計画の改善を図る必要がある。
- ・「書くこと」については、相手や目的、場面などに応じて、伝えたい事実や事柄と自分の考えや気持ちを明確にして書く力を高める必要がある。そのために、指導事項のイ（事柄や意見）と指導事項のウ（選材）との関連を考えて、年間指導計画を構成し、継続的に指導ができるようにするなどの工夫改善が必要である。
- ・「読むこと」については、文章の構成や展開を的確にとらえながら読む力を高めることが大切である。そのために、これまで作成している年間指導計画を見直し、指導が可能な単元に指導事項のウ（構成や展開）の内容を加えることにより、年間を通して継続的に指導することが可能になるよう見直しを図る必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、自分の意見を明確にするために構成を考えて話す力や、話し手の意図を考えながら聞き取る力を高める指導が必要である。そのために、話す材料を整理したり、話の組立て方を考えさせたりして、話のまとまりがどんな役割を果たして全体を構成しているのかを考えさせるなどの指導の工夫が大切である。また、言語活動を行う際に、相手・目的意識を高めながら、話すことと聞くことが一体的にとらえられるように留意し、日常生活で活用できる力の育成を図る必要がある。
- ・「書くこと」については、目的をもたせながら事実と考えを明確にするために必要な材料を選ぶ力を高める指導を大切にする。そのために、誰に何のために書くのかを意識させ、具体的な事実に基づいて自分の考えをまとめ、その上で取捨選択したり分類したりする活動を位置付けるなどの工夫をする。また、題材を的確にとらえて、それに対する自分の考えと根拠を明確にして書く機会を意図的に設定するなどの工夫をする必要がある。
- ・「読むこと」については、文章の中心部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を的確にとらえながら、内容の理解を促す指導の工夫が大切である。そのために、場面や段落相互の関係、文章全体と各段落の関係をとらえる力を付ける指導を大切にする。また、文脈の中での語句の意味を的確にとらえる力や、図表及びグラフなどが示している意味を正確に読み取るとともに、書き手の思いを豊かに感じ取っていく力を育てる指導の工夫が必要である。さらに、文章から新たな発見をする読書体験や主体的に読書をするような指導の工夫が必要である。
- ・「言語事項」については、各領域の学習に役立てるための基礎的な事項として生徒に意識させるとともに、日常生活に生かしていく力や、実際の活動場面において運用できる力を高める指導を大切にする。特に漢字の力については、書写の指導とも関連させて、意図的・計画的に繰り返し学習させる必要がある。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・辞書類の活用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮して言語環境を整えることが大切である。また、生徒が主体的に資料を活用し情報活用能力を高められるよう、図書館の計画的な活用に努める必要がある。
- ・国語科で身に付けた力が他の教科、領域等でも発揮できるように配慮することが大切である。また、教師自身が「話し方」「聞き方」「話し合い方」「書き方」等の模範を示し、生徒の国語に対する興味・関心を高め、国語を尊重する学習集団を育成するよう留意する。